



発行所 公民館
所 郡 人 司
西 町 公 集
北 川 郡 所
北洋印刷株式会社
(西瀬、巻町、電話204番)

昭和二十八年の 巻町の七大ニュース

町長選挙、駅前通りの大火、舗装道路等複雑だった昭和二十八年もいよ／＼おし迫り、やがて新しい年を迎えようとしている。そしてこの新しい年とともにこれらのあらゆる出来事もやがて忘れ去られてゆく。

- ① 町長選挙
- ② 駅前通りの大火
- ③ 三役退陣
- ④ 巻小八十周年行事
- ⑤ 消防自動車購入
- ⑥ 舗装道路
- ⑦ 全国表彰の文化協会

(1) 町長選挙

本間前町長辞任に伴う町長選挙は十月二十日の告示と同時に立候補した山添清一郎氏とおくればせながら、これに加わった白崎二氏との間に激烈なる選挙戦が展開され十月三十一日の投票結果現町長山添清一郎氏が当選し町長に就任したものである。

◇開票の結果
当選 山添清一郎

次点 白崎 一、五一一票
二、三〇二票
有権者数 六、二四五
投票者数 四、九七三
有効投票 四、八一三
無効投票 一六五
投票率 七九、六三

(2) 駅前通りの大火

十一月二日早晩、巻駅前通り花岡食堂附近から発火した火災は火点近くにある水路の水

十一月二日早晩、巻駅前通り花岡食堂附近から発火した火災は火点近くにある水路の水

(4) 巻小学校八十周年行事

巻小学校は明治六年一月十五日創立され、今年で満八十年となつたので巻小学校創立八十周年記念事業として去る十一月三日、菊花

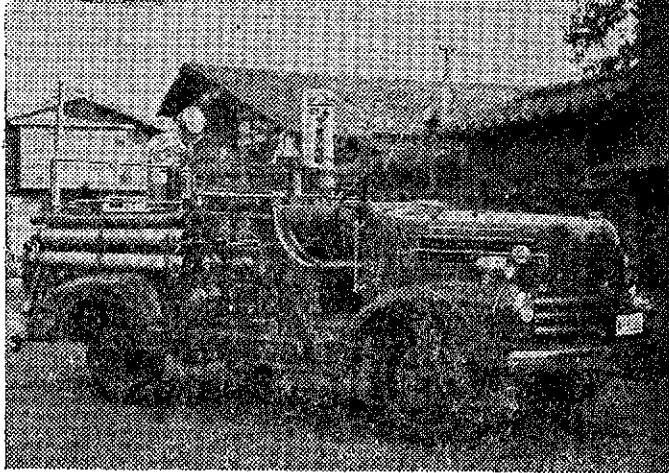
不十分から消火活動が遅れ不幸にして全半焼六戸、焼失面積二五四坪(建坪)という結果となり巻町近來にない大火であった。又同月二十八日夕刻一區鈴木綿上場から発火した火災は幸い町内は勿論のこと近村の消防の応援を得て工場一棟を焼失して鎮火した。

(3) 三役退陣

巻保健所増築の地元負担金にからみ端を発

入 港防自動車購

十月二十二日から新しい自動車ポンプがこの町に姿を見せた。名称 いすず型式 三段タービン気筒数 六機関の馬力 毎分二



新しい消防自動車の勇姿

(6) 道路の舗装

しぐれにしつぼりと濡れた舗装道路に店頭

(7) 全国表彰に輝く文化協会

体育協会 邦楽協会

去る八月二十一日栃木県日光町に於ける全国レクリエーション大会の席上に於て、巻町体育協会並びに巻町邦楽協会の二団体が全国レクリエーション優良団体として被表彰三十団体の中に選ばれ表彰された。

表彰状

新潟県巻町体育協会 巻町邦楽協会 貴団体におかれては全員協力一致してレクリエーションを模範的に実践し生活文化の向上にきわめて顕著な成績をおさめておられることを認めここに優良団体として表彰いたします。今後ますますこの活動を通じ明かす平和な文化社会建設に寄与されんことを期待します。



忙、今年も亦慌しく暮れる。菱の実も亦秃筆に頼らつて今一つの馬蹄を加える。大きくは世界を、身近にはこの町の種々の出来事を振り返つても幾多の思い出が苦渋と笑いと涙の中に想い起される。本年も年末恒例の「町の七大ニュース」を広く江湖に問うて今年の巻を飾らうと努めている。今年の新ニュースといえは誰しも先づ取り上げるであろうが町にも一政変があり副権の交代があつた。議会も荒れたようだが助役選任問題を一応の頂点として「政局」も大休の安定点を見出し、年を送るべき年はいよいよ来る。新しい首長にとつては本格的施政へ第一歩を踏み出す最初の年となり議員諸君にとつては本任期中実質的に町政参画の最後の年となる。対立も派閥も時には沈滞を破るより刺戟となるであろうがそれ等は総べてよりよきものを生み出す創造の原動力となるものであつて欲しい。来年はウマ年。時にはお互に手綱を引きしめて奔馬の勢を戒しめる事も必要であらう。

生花

てから幾月か... 歌の文句... じやないが、巻を... 出でから... 幾月もたつてしまいま... した。親元を遠く離れ... て親の恩を感じる如く... 巻を離れてから殊更皆... さんの御厚情が身に... みて感じます、紙上を... がりて深く厚く御礼申... 上げます。

当地は豪雪対策の時... 期に入りました、学校... の「雪がこい」等無関... 心でおるものですか... 地域では蒲原の気がま... だぬけないな!!などこ... ごとを申しています。

小品

友に寄せて

一宵蘭はふたりを包... 灯を包み... 静かに街のなかを... 流るる。

(吉井 勇)

炬燵に入つて時雨をき... きながらこの歌を思い... 出したら何か胸にしみ... 込んで考へさせられて... ます、あの夜街をさま... よいながら色々こんな

種教育機関の長をいつ... ばい、おうせつつけられ... 「長」「長」で公僕以... 上の小間使役をやつて... います。巻でじつくり... 学校経営につとめた頃... とくらべて、良心的に... 困っています。

割元様

【抜書・聞書・覚書】

中心の交通道路にした... いものです。道路の拡... 張、運転者の自衛によ... り、中学生を保護して... いただきました思いが今... も感ぜられます。

それを救ふも救はない... も只あなたの清楚な生... 活のみです、飲茶の後... には泥沼の様な哀愁が... 残ることも知つて居た... はづです。信願される... 人間になつて下さい、... そしてすがすがしい毎... 日を送つて下さい、今... 日は苦言を呈したが、... いつかまた折を見て語... りませう、静かな宵蘭... に

【南魚沼 六日町中学校長】
お通りがかりの際は御... 出下さい。
併し電気機関車の近代... 的感覚、湧出量日本一... を競う僻地のオアシス... 湯沢温泉もあります。
併し、くどくことは同... じようでもいよ／＼承... 知して出す時は蒲原と... 魚沼は雲泥の差がつく

【安養寺】
「：後法縁を以て当... 国に來り、赤塚村に一... 宇を設け、堂谷山淨光... 院安養寺という。寛永... 年中巻の里正樋浦外記... (転瀉頭)の請により... 今の地に移る」
「温故の栞」にはこ... う書いてある。
久我様もやはり赤塚... から里正樋浦氏の請に... よつて巻へ移られたと... いう。

これを語り合つて別れ... た時は心からあの歌の... 神祕にある心境だつた... でせう、だのにお母さ... んの話では朝帰りだつ... たと聞かされてぼろ然... としました。あなたの... 身近な人々が裏切られ... た味気なさを味ふ心を... 想像して下さい。いか... りや、にくしみなど超... 越したそのわびし。

【春】
これにつき、瀧頭の... 樋浦直衛さんがいつか... きかせて下さつた。
「うちの先祖と安養... 寺様とは暮友運で、う... ちの隣に空地があるか... ら來ないかというので... 安養寺様がきなさつた... そのうち、うちも没落... して巻におられなくな... り、瀧頭の庄屋の株を... 買つてひきこんだ。位

永十九年になつてくるか... らその人が瀧頭へ來た... のではあるまいか。
うちが巻を去つた後... 和納の本町から南須原... さんが株を買つてきた... らしい」
割元様がどんなもの... であつたかについて史... 学会で八百安さんが話... して下さつた一つのエ... ビソート。
「下のなんとかとい... う男が、割元様の雪下... しの入夫に行つて、仿... き振りがいいというの... で名前をきかれた。そ... れで大将夕飯に頂いた... 酒にいい機嫌になつて... 帰りに一軒／＼おれは... 割元様に名前をきかれ... たんだぞといばかりち... らしながら帰つた」
(斎藤)

町民の声
隨筆・小品文
短歌・俳句・詩
その他
いづれも原稿用
紙使用のこと
宛先 公民館弘
報部
(還折は公民館弘
報部にお委せ下さ
い)

正月の遊び
家族揃つて或はお友... 達を誘つて家中楽しく... すこせる正月の遊び二... つ三つ御紹介します。
* リング・レース *
左右二組、同数に分... れます。みんな口につ... ま楊子をくわえます。
そして各組にかんじよ... りで作つた三センチ直... 径位のリングを渡しま... す。「用意」で一番の... 人は口にくわえたつま... 楊子にリングをぶらさ... げます。「始め」でそ... のリングを、手を触れ... ないで次へ次へと口の... 楊子で送るわけで、早... く最後の手に渡つた方... が勝になります。リン... グを落した場合、口の... 楊子で拾い上げるよう... にすれば、なお面白... くなります。
* ポート・レース *
数組に分れ、紙で舟... を折ります。それに木... 綿糸三米位つけ、端を... 鉛筆の真中に結んで、... 丁度長さを同じにして... おきます。用意ドンで... 選手は鉛筆で糸をぐる... ぐる巻き舟を近寄せる... のです。早くラインま... で巻き寄せた組が勝と... なります。休まず三米... の糸を鉛筆で巻くのは

著者は福岡県の日炭々... 坑に五年間坑夫として... 働いたその体験を日記... 風につづつたものであ... るが、労働運動の興隆... 期から沈滞まで、組合... 運動への理解と友人達... の協力の中で労働者と... して自覚と誇りを身に... つけてゆく様子が割に... 淡々と語られている。
海底に光る鉄脈のよ... うな灼く者同志の友愛... と信頼が全篇に流れて... いて読む人に勇気を与... えてくれる。(R)

「もぐら日記」
松本 信也著
おすすめた本
アーサー・トムソン著
トムソン 科学大系
新刊物ではありません... なが大人も子供も楽し... む乍ら自然に科学に親... しみで行けるもので図... 書館に一揃え位あつて... もよろしいかと存じま... す。
(七区石川いちの)

- 用
- 佐藤玲子氏(〇)
 - 五区 十一月一日
 - 宮野キヨ氏(七五)
 - 五区 十一月五日
 - 大島勇助氏(六七)
 - 十一区 十一月五日
 - 赤川康子氏(二)
 - 九区 十一月十六日
 - 遠藤ヒメ氏(四〇)
 - 十区 十一月十八日
 - 和田五蔵氏(七三)
 - 十三区 十一月十九日
 - 野水周太郎氏(七十)
 - 七区 十一月十九日
 - 眞島ナカ氏(八〇)
 - 九区 十一月二十六日
 - 渡辺ナカ氏(六五)
 - 九区 十一月二十八日
 - 内藤栄一氏(一五)
 - 十一区 十一月二十九日

昭和二十八年十一月 十四日より 第一会場 卷町 公民館
十六日まで 第二会場 卷町 妙光寺

第三回 新潟県文化遺産展 (西蒲地区) 出展目録

主催
新潟県教育委員会
西蒲原郡教育委員会連絡協議会
同 教育長連絡協議会
同 公民館連絡協議会
卷町教育委員会
卷町公民館

